



ライオンズクラブ国際協会 332-C 地区

Governor Today

ガバナートゥディ

ガバナースローガン

支え合おう



ご挨拶

2025～2026年度 332-C地区ガバナー

斎藤 孝一 (多賀城LC)

10月24日～26日に札幌で開催されたオセアルフォーラムでは、国内外から多くの仲間が集い、活気と熱気に満ちた三日間となりました。なかでも、A.P.シン国際会長の登壇は、会場全体が一段と引き締まる瞬間でした。国際会長が示されたビジョンは、ライオンズがこれからも地域社会の課題に対して果敢に向き合い、未来を切り拓いていくべきだという強いメッセージであり、私自身も深く胸に刻む時間となりました。世界規模での活動が、私たち332-C地区およびクラブの日々のアクティビティへ確かに追い風となっていることを改めて実感いたしました。

さて、早いもので今年も12月を迎えます。皆さまには、これまでの半年間、本当に力強いご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。7月からの歩みを振り返ると、まさに“怒濤の半年”と言っても過言ではありません。地区としての公式行事に加え、各クラブの活動、訪問、各種会議が途切れることなく続きました。そのひとつ一つに、メンバーの皆さまの真剣な姿勢、そして地域を想う情熱であ

Message

ふれており、332-C地区が着実に躍動していることを強く感じております。

宮城県内も冬らしい寒さが本格化してまいりました。これから年度後半へ向けて活動が続きます。特に年末は献血推進、街頭募金等、屋外での各クラブのアクティビティが多く行われる月でもあります。どうかお身体を大切に、無理のない範囲でクラブ運営に励んでいただければ幸いです。仲間同士のちょっとした声掛けが、クラブの士気を一段と高め、困難な時期でも大きな力になります。

年末は、これまでの歩みを振り返り、次のステップを思い描く大切な節目です。地区として掲げる「つながり続けるクラブ」の理念を土台に、後半戦もワンチームで力強く歩みを重ねていきましょう。皆さまの行動と熱意が結集すれば、必ずや地域に新たな価値を創り出することができます。

どうぞお身体に気を付けて、温かく、希望に満ちた新年をお迎えください。

OSEALフォーラム札幌、盛大に開催

2025年10月23日(木)～26日(日)/京王プラザホテル札幌・大和ハウス プレミストドーム・札幌コンベンションセンター・北海道庁旧本庁舎(赤れんが庁舎)

2025年10月23日から26日にかけて、第62回 OSEAL(東洋東南アジア)フォーラムが札幌市で開催されました。今年は日本での開催ということもあり、全国から多くのライオンズクラブメンバーが参加し、活発な交流と学びの場となりました。

今回のフォーラムでは、従来のプログラムに加え、PID/PDG(元国際理事/元ガバナー)セミナー、ゾーン・チェアパーソンセミナー、そして国際会長とクラブ会長の会議といったセミナーが多数企画され、我々、参加者にとって大変に有意義な内容となりました。これらのセミナーでは、リーダーシップの向上やクラブ運営の活性化に繋がる具体的な手法が共有されました。

また、会場内では北海道の豊かな食文化を堪能できる食事ブースや展示バザーも設けられ、多くの参加者で賑わいました。さらに、ペットボトルキャップアートの制作やブルタブの回収といった奉仕アクティビティも同時に行われ、楽しみながら社会貢献に参加できる機会もありました。

女性会員増強への新たな試み

フォーラム期間中には、日本のライオンズクラブが独自に進める「ミッション1.5」の一環として、女性会員の増強に貢献したクラブを称える表彰式が執り行わ

れました。これは今年度新たに女性会員を1名以上迎えたクラブの会長を対象としたもので、受賞者には記念のオリジナルピンが贈呈され、執行役員との記念撮影が行われました。この取り組みは、多様性を重視し、組織全体の活性化を目指すライオンズクラブの姿勢を象徴するものとして大いに注目を集めました。

シン国際会長も来訪

今回のフォーラムには、インド出身のA.P.シン国際会長も駆けつけ、フォーラム全体に大きな活気をもたらしました。国際会長は、地区ガバナーやクラブ会長との会議に臨み、ライオンズクラブが世界規模で取り組むべき課題、今後のビジョンについて熱く語りました。そのリーダーシップに触れた参加者たちは、改めてライオンズクラブのメンバーであることの誇りと使命感を強く認識したと思います。続けて晩餐会もおこなわれ親交がはからされました。

最後に、今回のOSEALフォーラム札幌は、参加者一人ひとりにとって、多くの学びと感動を得る貴重な機会となりました。ここで得られた知識や経験を各々の地域に持ち帰り、今後の奉仕活動に活かしていくことが期待されます。



薬物乱用防止教育認定講師養成講座を開催

2025年11月1日(土)/せんだいメディアパーク7階 スタジオシアター

近年、若年層における薬物乱用が深刻化する中、ライオンズクラブの重要な奉仕分野である「青少年健全育成支援」の一環として、薬物乱用防止教育認定講師養成講座を11月1日(土)、せんだいメディアパークにて開催いたしました。

本講座は(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターとの共催であり、育成された認定講師は、全国の小中学校で年間約40万人の児童・生徒に薬物の恐ろしさと正しい知識を伝えるなど、大変重要な役割を担います。

当日は地区内ライオンのほか仙台薬剤師会からもご参加いただき、30名を超える受講者が集結。皆様、講師の言葉に真剣に耳を傾けていました。

講座では、薬物依存症の精神薬理から、薬物乱用に対する行政の対応、そしてライオンズクラブの実践と、以下の通り多角的な視点から学びを深めました。

- ・基礎講座「薬物依存症の精神薬理」

仙台こだま支部 医学博士 L.山口克宏

- ・専門講座「薬物犯罪等の現状」

東北厚生局 麻薬取締部 調査総務課長 福田淳史 様

- ・専門講座「薬物乱用防止対策について」

宮城県教育庁 保健体育安全課 課長補佐 山口勝弘 様

- ・専門講座「県の取り組みと課題」

宮城県保健福祉部薬務課 技術副参事兼総括課長補佐 杉山照徳 様

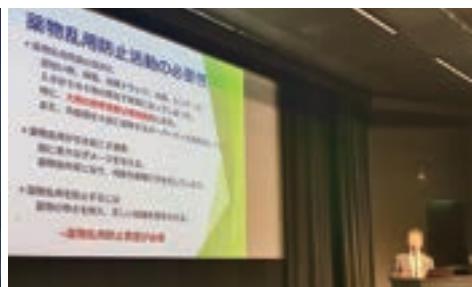
- ・実践講座「LCにおける薬物乱用防止活動」

330-B地区 薬物乱用防止教育認定講師 L.立山和也

委員会では、新認定講師の皆様へのフォローアップとして、地区内で既に教室を実施されているクラブの活動にオブザーバー参加できる機会を設けています。今後は、より実践的な模擬授業の実施も企画しております。

認定講師となられたライオン各位におかれましては、本講座での学びを活かし、ぜひ各クラブのアクティビティとして「薬物乱用防止教室」を積極的に実施されますことを強く期待いたします。

青少年健全育成委員会 委員長 土見 大介(塩釜中央LC)



石巻日和LC 矢本西小学校にて薬物乱用防止教室を実施

2025年11月7日(金)/ 東松島市立矢本西小学校

石巻日和ライオンズクラブは、11月7日に東松島市立矢本西小学校を訪問し、6年生の児童2クラスを対象に薬物乱用防止教室を開催しました。

近年、薬物乱用は若年層にも深刻な広がりを見せており、SNSや先輩後輩の繋がりなどを通じて巧妙に誘い込む手口も後を絶ちません。ライオンズクラブの重要な奉仕分野である「青少年健全育成支援」の観点からも、子どもたちが薬物に関する正しい知識を持ち、その恐ろしさを深く理解することは喫緊の課題です。

特に、来春に中学校進学を控え交友関係が広がる小学6年生という時期に、薬物の危険性を自らの問題として捉え、誘惑を断ち切る強い意志を育み断る術を知ることは極めて重要です。

当日の教室では、同クラブの認定講師2名が登壇。児童たちは、講師の話に熱心に耳を傾け、講師からの問い合わせにも臆することなく大勢が手を挙げていました。

また、必死にメモを取る姿も見られ、関心の高さがうかがえました。

教室は、薬物が心身に及ぼす深刻な影響や犯罪の手口などを解説するだけでなく、時折クイズを交えて理解度を確認したり、精巧な違法薬物の標本を回覧したりと、児童を飽きさせない工夫が随所に見られました。この教室を通じて、児童たちが「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉を胸に刻み、自らの未来と命を大切にする強い心を持ってくれることを願います。

青少年健全育成委員会では、薬物乱用防止教育の認定講師となられたライオンを対象に、薬物乱用防止教室のオブザーブや模擬授業の実施など、フォローアップ事業を企画しています。ご希望される方は、お問い合わせください。

青少年健全育成委員会 委員長 土見 大介 (塩釜中央LC)



332複合地区 第2回複合連絡会議

2025年11月10日(月)/郡山ビューホテルアネックス

ライオンズクラブ国際協会332複合地区（東北6県で構成）で開催された第2回複合連絡会議において、LCIF（ライオンズクラブ国際財団）による表彰式が行われ、332-C地区から渡邊前議長、斎藤ガバナー、佐藤前ガバナーの3名が呼名され、名誉ある表彰を受けました。

332複合地区は、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の6県で構成され、各県のガバナーや地区代表が集まり、東北全体の奉仕活動や広域連携を進める組織です。その会議の中で行われたLCIF表彰は、332-C地区の1年間の取り組みが認められた意義深い場となりました。

今回の表彰では、332-C地区の3名が、この1年間、LCIF支援推進や寄付活動の啓発、さらには地域奉仕との連携において成果を上げた点が評価されました。呼名の際には会場から温かい拍手が送られ、東北6県の仲間から祝意が寄せられました。

LCIFは、国内外の災害支援、青少年育成、医療支援など、世界規模の奉仕を支える存在であり、今回の表彰は332-C地区が複合地区の中でも確かな役割を果たしている証です。

この受賞を励みに、332複合地区は今後も東北全体の結束を深め、地域へさらなる貢献ができる活動を推進していきます。



332-C 地区 アラートセミナー

2025年11月14日(金)14:30～16:30/多賀城市文化センター 小ホール

最初に主催であるALERT委員会委員長 L 三好康浩から開会の挨拶があり、続けて地区ガバナー L 斎藤孝一からも挨拶がありました。

講師として、335-A 地区 3R2Z 明石魚住ライオンズクラブの L 橋本維久夫をお招きしました。

阪神・淡路大震災直後自ら被災したにも関わらず立ち上がった支援活動から始まり、以後の東日本大震災や日本各地の震災への20年以上にわたる支援活動について熱く語られました。

特に東日本大震災時、トラックに物資を積んで福島県を回った時に、出会った一人の子どもに軽い気持ちで「何か欲しいものはない?」と聞き、「明日の命をください」と言わされて、男3人で号泣したというエピソードには、心うたれました。332-C 地区に限っても、東日本大震災や丸森の台風19号水害時に、物資支援や炊

き出し等でかなりの支援を頂いております。一緒に来られた明石魚住LCクラブ会長 L 川人麻千子も東日本大震災時に行政のバスに乗って数日間被災地の泥搔き支援に参加して下さったそうです。

橋本講師は20年以上前からインターネットを活用し、全国のライオンズクラブとネットワークを作りながら活動しており、現在は行政等と災害時におけるボランティア協定を結ぶなど、「出来る時に出来ること」という精神で被災地支援に限らず「子どもたちの笑顔」を目的に活動を続けておられるとのこと。

ガバナーが挨拶の中で仰った「最近は、忘れた頃ならぬ忘れぬうちに災害が」という言葉通り、毎年のように災害が発生しております。我々も「出来る時に出来ること」を積み重ねて、いざという時に備えなければいけないと改めて感じたセミナーでした。



ライオンズ国際平和ポスター・コンテスト地区選考会

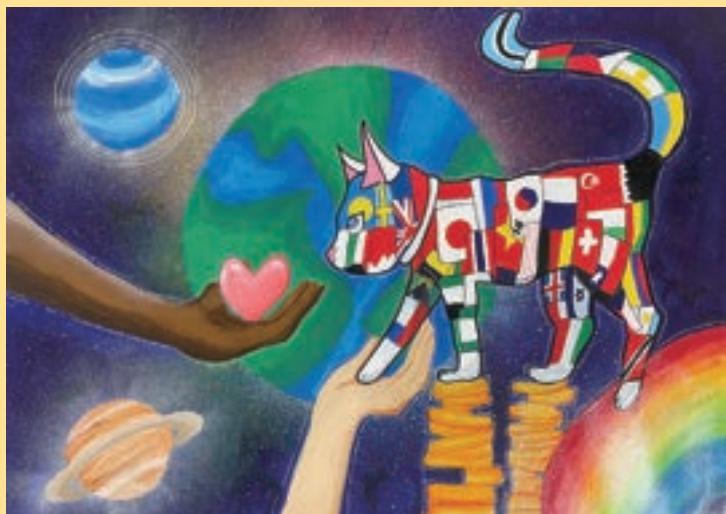
2025年11月18日(火)/332-C地区キャビネット事務局

本年度の「国際平和ポスター・コンテスト」には、各クラブから計5作品の応募をいただきました。本年度の作品テーマは「ひとつになって」です。どの作品も、子どもたちが日々感じている平和への思いが力強く表現されており、色彩や構図、メッセージ性に至るまで、まさに力作ぞろいでした。

提出された作品は、地区内の審査委員によって丁寧に選考が行われ、今後332-C地区の代表として国際大

会へ進む入選作が決定いたしました。どの作品にも独自の視点と未来への願いが込められており、選考は悩ましいほどの接戦でした。

応募にご協力いただいた児童・生徒の皆さん、指導にあたられた先生方、そして各クラブ関係者の皆さんに、心より感謝申し上げます。子どもたちが描く「平和のイメージ」が、私たちの活動の原点であることを改めて実感させられるコンテストとなりました。



最優秀ガバナー賞

石巻市立青葉中学校
高橋 柚圭 さん



優秀賞

女川町立女川中学校
小松 桃々 さん



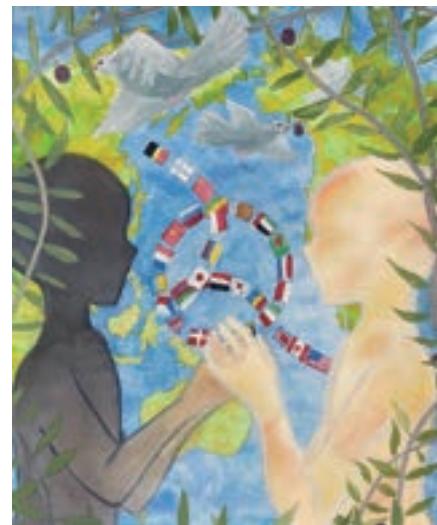
優秀賞

仙台市立広瀬中学校
齋藤 有紗 さん



努力賞

石巻市立蛇田中学校
菅原 優彩花 さん



努力賞

仙台市立広瀬中学校
小石川 かほ さん



2025年10月 マンスリーレポート集計表

会員増強状況

	期首	前月末	入会		退会		今月末	比較	
			当月	累計	当月	累計		当月	期首
クラブ数	55	55	0	0	0	0	55	0	0
会員数	1,454	1,455	3	28	7	30	1,451	-2	-4

アクティビティ活動報告

項目	件数	実績
金額アクティビティ	76件	3,608,427円
労力アクティビティ	34件	604.0 H
献血アクティビティ	4件	動員数 594人 200,600cc
使用済み切手		0枚
献眼登録アクティビティ		0人
献眼アクティビティ		0人
献腎登録アクティビティ		0人
献腎アクティビティ		0人

リジョン別会員数

R	Z数	クラブ数	平均出席率 %	R	1Z	2Z
				会員数	会員数	会員数
1	2	14	52.9	440	266	174
2	2	11	62.9	207	129	78
3	1	9	77.2	211	211	
4	2	13	50.8	431	213	218
5	1	8	50.4	162	162	
計	8	55	58.8	1,451	981	470

ライオンズクラブ国際協会332-C地区 会員の皆様へ

アクティビティレポート記事募集のお願い

地区情報誌「アクティビティレポート」では、会員の皆様からの寄稿を募集しております。今回は、各クラブで行われているアクティビティに関する記事を募集いたします。

日頃の活動内容、地域社会への貢献や参加者の声など、貴クラブのアクティビティを具体的にご紹介ください。写真も合わせてお送りいただけると幸いです。

皆様からの活動報告は、「アクティビティレポート」をより充実させ、地区内の情報共有や相互啓発に繋がる貴重な資料となります。ぜひ、貴クラブの活動を広く発信してください。

募集内容

テーマ：各クラブのアクティビティ

内 容：活動報告、地域社会への貢献、参加者の声など

文字数：300字程度

写 真：1～2枚程度（高画質のもの）

応募先：キャビネット事務局へメールまたは郵送にて

メール：332-c@lions-clubs.jp

皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。お送りいただいた写真、文章についてはホームページにも掲載させていただきます。

※肖像権の関係上、写っている方の確認がとれるものをお願いいたします。

ライオンズクラブ国際協会332-C地区
2025年-2026年度 地区運営方針

ガバナースローガン

支え合おう

アクティビティスローガン

コミュニケーション溢れる332-C



332-C 地区に求められる行動目標

1. 会員増強に関する地区目標設定

- ミッション1.5を支援するため、私は地区ガバナー任期中に、地区チームと協力して 地域に定められた会員拡大ターゲット値の達成に取り組む。
- 当地区に定められた会員拡大目標数値を達成する。
- 私たちのチームでは、下記ターゲット値に加え、
①チャーターメンバー各20名以上の新クラブをさらに1つ結成する。
②地区内のクラブは、既存のクラブにさらに30名の新入会員を入会させる。
③会員をさらに5名純増させる。

[ターゲット値：新クラブ1、新会員142名、会員純増25名]

2. 指導力育成に関する地区目標設定

- 知識の豊かなサーバント・リーダーは、各地域社会で新会員を呼び込み、ライオンズとレオが充実した会員体験を得られるようにする。私は地区ガバナー任期の第1四半期に、地区チームと協力してクラブ役員研修とゾーン・チアパーソン研修の推進に取り組む。
①私たちのチームは、ゾーン・チアパーソンの100%がゾーン・チアパーソン研修に参加するようにする。
- ②当地区は、クラブ役員（会長、幹事、会計）100%がクラブ役員研修に参加するようにする。
- ③私は、地区GLTコーディネーターがLearnの研修管理機能を使って、完了したゾーン・チアパーソン研修とクラブ役員研修を確実に報告するよう働きかける。

[Learnの研修をZC、クラブ三役に任期前に受けて頂きたい。また、できれば、地区内メンバーにライオンポータルが学べる場を設けて頂きたい]

3. 奉仕事業に関する地区目標設定

- クラブの奉仕のインパクトへの認識を高めて会員候補を呼び込むため、私は地区ガバナー任期中に、地区チーム

と協力してライオンズクラブとレオクラブの奉仕報告率の向上に取り組む。

- ①私たちのチームは、地区報告サービスに参加するライオンズクラブとレオクラブの100%を確保する。
- ②私は、地区GSTコーディネーターが適時に奉仕を企画して報告することの重要性を訴えていくよう働きかける。

【奉仕活動報告はクラブが国際協会にライオンポータルから直接報告するように求められている。各クラブに報告方法を改めて周知する必要がある。】

4. LCIFに関する地区目標設定

- 会員オリエンテーションでLCIF（ライオンズクラブ国際財団）への寄付のインパクトに関する知識を高めれば、個人的な貢献と寄付を増やすことができる。
- LCIFがその資金獲得目標を達成し、グローバルなインパクトをたかめることができるよう、私は地区ガバナー任期中に、地区チームと協力してLCIFへの支援に取り組む。
- ①私たちのチームは、地区内の個人寄付参加率を50%、地区内クラブの寄付参加率を50%高める。
- ②私は、ブロンズレベルのLCIF理事長メダル獲得を目指す。
- ③私は、LCIFに1000ドルの個人献金を行い、当地区キャビネットの20人のメンバーにLCIFへの個人寄付を行うよう求める。
- ④私は、地区内の資金獲得目標が確実に達成されるようにすることで、国際会長LCIF達成アワードの獲得を目指す

【会員一人100ドルのLCIF支援を目指している。寄付0のクラブをなくし、参加率100%を目指したい。地区的会員数×100ドルを基準（1,200人×100ドル）とする。キャビネット構成員、ZC以上のリーダー数がMJF個人寄付者になれるようしたい。】



アクティビティレポートは
アクティビティ通信として
15日に発信致します。